

梶井宮かぢのみや円融院えんゆういん梨本房なしもとぼうは、呂りよの川の北にあり、天台てんたいの座主ざすにして諸門を推てこれを祖とす。〔当院ちやういんむかしは東坂本ひがしざかもとにあり、梶井かぢるの芝とて今に旧跡のこる。夫より舟岡山ふなをかやまの麓にうつし、近代此地へうつすとなり〕極楽院ごくらくいん〔当院ちやういんにあり、

恵心僧都えしんそうづの妹安養尼あんやうにの庵室あんしつの旧跡なり〕壳炭翁ばいたんをうの墓むら〔うしろの山にあり、古此所にて炭を焼初し翁の墳なりとぞ〕
極楽院ごくらくいんに陵阿上人りやうあうゑ置りたる桜を見て

草 庵 見るたびに袖こそぬるれ桜花涙のたねを植や置けん

頓 阿

護法石ごはふ〔当院の門前垣の傍にあり、むかし皇慶阿闍梨くわうけいあざりといふ智徳の僧ありて、常に天童来りて随従す、これを護法童子ごけふどうじといふ。皇慶の滅後に化して石となりしといひ伝ふ〕